

研究課題名

IgA血管炎の腎予後予測モデル構築のための国際多施設共同研究

研究の対象となる方

2005年4月から2016年11月の間に島根大学医学部附属病院でIgA血管炎（旧称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病性腎炎、または紫斑病性腎炎）と診断された方

研究の目的・意義

IgA腎症は20年以上の経過で約4割が末期腎不全に至る予後不良の疾患です。このため、腎生検でIgA腎症と診断された際に「腎臓がどのくらいの確率で悪くなるか」について正確に予測することが重要ですが、正確な予測は未だ出来るようになっていません。そこで、現在、“IgA腎症の腎予後予測分類作成のための国際多施設共同研究”が行われており、腎臓の組織をOxford分類という方法で分類し、それを元に「腎臓がどのくらいの確率で悪くなるか」を判定する式を作成されつつあります。

一方、IgA血管炎（旧称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病性腎炎）の腎生検組織像はIgA腎症に極めて類似しているため、IgA腎症に関して作られた式がIgA血管炎（旧称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病性腎炎）でも使用することが出来るのではないかと考えられます。IgA腎症の腎予後予測モデルがIgA血管炎（旧称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病性腎炎）にも適用できることが証明されれば、IgA血管炎（旧称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病性腎炎）の診療の手引きになり、腎臓が悪くなる確率を減らすことができる可能性があります。

研究の方法

1) 対象となる患者さん

2006年以降に当院腎臓内科にて腎生検を受け、IgA血管炎（旧称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病性腎炎、または紫斑病性腎炎）と診断された方

2) 方法

世界腎病理協会と国際IgA腎症ネットワークの共催による「IgA腎症の臨床病理分類に関する合同会議」のメンバーからなる研究組織により計画、実施されており、臨床データは登録フォームをCoppo先生（Turin, Italy）に、病理データは腎生検標本をスキャンしたバーチャルスライドをHaas先生（California, USA）に送付します。まとめた臨床データシートと病理スコアシートを中央解析機関であるDr Barbour先生（Vancouver, Canada）に送付し、全世界規模での解析を行います。

3) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、腎生検のときの臨床所見、腎生検病理データ、治療薬の種類、経時的な臨床所見です

4) 研究参加に伴う不利益、費用負担について

この研究は、過去の腎生検結果と血液・尿検査結果を用いた研究であるため、本研究に参加することにより、対象となる方に利益や不利益が生じることはありません。

この研究を行うにあたり、対象となる方が費用を負担することはありません。また謝礼もありません。

5) プライバシーの保護について

この研究で得られた結果は、学会や医学雑誌等に発表されることがあります。このような場合、対象となった方を特定できないように致しますので、個人情報などプライバシーに関する事項が公表されることは一切ありません。

研究の期間

2018年1月～2022年3月

研究組織

世界腎病理協会と国際IgA腎症ネットワークの共催による「IgA腎症の臨床病理分類に関する合同会議」のメンバーからなる研究組織により計画、実施されている。

1) 研究総括医師

Daniel C Cattran, University Health Network, Toront General Research Institute (Canada)

2) 事務局、登録センター、データ管理、統計解析

Sean Barbour, Division of Nephrology, Department of Medicine, The University of British Columbia (Canada)

3) 研究実施施設、研究責任医師、研究分担医師

Pediatric Nephrology

R. Coppo (Turin, Italy)

J. C. Davin (Netherlands)

J. Ding (Beijing, China)

M. Nuutinen (Finland)-

L. Peruzzi (Italy)

Y. Shima (Wakayama, Japan)

N. Yoshikawa (Wakayama, Japan)

R. Wyatt (Alabama, USA)

Nephrology (for adults)

E. Daugas (France)

G. Duruvu (USA)

F. Fervenza (USA)

D. Jayne (UK)
R. Katafuchi (Fukuoka, Japan).
Z.H. Liu (Nanjing, China).
R. Monteiro (Paris, France)
V. Tezar (Czech Rep.)
H. Zhang (Beijing, China).

Pathology group

M Haas (California, USA)
Charles Alpers (USA)
Carmen Avila-Casado (Canada)
Ingeborg Bajema (Netherlands)
Terry Cook (UK)
Franco Ferrario (Italy)
Agnes Fogo (USA)
Mark Haas (USA)
Jean Hou (USA)
Charles Jennette (USA)
Kensuke Joh (Japan)
Mercury Lin (USA)
Ian Roberts (UK)
Aurelie Sannier (France)
Sanjeev Sethi (USA)
Maria Fernanda Soares (UK)
Suxia Wang (China)
Caihong Zeng (China)

その他、厚生労働省難治性疾患克服対策研究事業進行性腎障害に関する調査研究班に所属する分担研究者、研究協力者の各施設に協力を要請しており、日本からは合計約 10 施設の参加を予定している。

試料（検体）・情報の利用停止

ご自身の試料（検体）・情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2022 年 3 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の試料（検体）・情報を研究に利用してほしい方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院腎臓内科 伊藤孝史

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2122 FAX 0853-20-2122